

「4K8K スーパーハイビジョンパーク」 「8K ジャズ・シアター」 「CEDEC2018」

神谷 直亮

今月は、NHK がプロモートした「4K8K スーパーハイビジョンパーク」と「8K ジャズ・シアター」、コンピュータエンターテインメント協会 (CESA) が主催した「CEDEC2018」についてレポートする。

「4K8K スーパーハイビジョンパーク」と「8K ジャズ・シアター」

「FIFA ワールドカップ・ロシア大会」のパブリックビューイング (PV) を契機に、NHK が 4K8K スーパーハイビジョンの売込みに異常な熱を入れている。まず、8月1日から4日まで「4K8K スーパーハイビジョンパーク」を品川インターシティホール (東京・品川区) で開催した。今回の会場は「8K シアター」「近未来! 8K リビングシアター」「22.2 チャンネル・ホームシアター音響」「8K インターラクティブ (双方向) で遊ぼう」「超小型 13.3 インチ 8K 有機 EL ディスプレイ」など9つの展示とデモで構成されていた。

450 インチの大スクリーンと 22.2 チャンネルの音響装置が導入された「8K シアター」では、パナソニックの 4K プロジェクターを4台駆使して上映が行われた。コンテンツは、「2017 紅白歌合戦」「ピョンチャン・羽生結弦 SP」「サカナクションライブ 2017 ダイジェスト」の3本で、それぞれ 8K ならではの特色を出しており素

晴らしい出来栄であった。

「近未来! 8K リビングシアター」は、88 インチのシート型有機 EL テレビと 22.2 ディスクリット音声システムで設営されており、間もなく訪れる 8K テレビのある暮らしを来場者にイメージしてもらう場になっていた。コンテンツは、3本の内の2本は「8K シアター」と同じで、羽生結弦のフィギュア映像のみが SP ではなくフリーであった。羽生ブームが功を奏したのか、「8K シアター」「8K リビングシアター」とともに女性の来場者が異常に目に付いた。

筆者が最も注目したのが「22.2 チャンネル・ホームシアター音響」で、室内には 11.1 チャンネルのスピーカーしかないのに 22.2 チャンネルの音響をみごとに再生していた。説明員によれば、「22.2 チャンネルの本来の放送を音声信号と方向信号に仕分けして、ドルビーアトモスのフォーマットとデノンハイレゾ対応プリメインアンプを使ってオブジェクト音響として再生している」とのことであった。NHK は、12月1日から毎日 10:00~22:10 の約 12 時間の「BS 8K」放送を計画しているが、22.2 チャンネルの音響をどのように各ホームで再生してもらうかという課題を抱えている。

「8K インターラクティブ (双方向) で遊ぼう」のコーナーでは、1969年7月に人

類が初めて月に着陸した際に撮影した 300 枚の写真を 8K 化し、iPad で好きなものを選んで見ることができる仕組みを紹介した。21 時間を超える月面滞在の一部始終を、8K 大型テレビで実感することができるという素晴らしい機会を提供しており、来場者の人気を得ていた。

「超小型 13.3 インチ 8K 有機 EL ディスプレイ」は、半導体エネルギー研究所と共同で開発した自慢の製品で、来場者に虫眼鏡を使って超高画質のチェックを促していた。

次いで、NHK は 8月31日から9月2日まで、みんなの広場ふれあいホールで「8K ジャズ・シアター」をオープンし、「ボブ・ジェームス&ランディ・ブレッカー」「チック・コリア、ハービー・ハンコック」「マッコイ・タイナー with ヒズ・フレンズ」「デヴィッド・サンボーン サウンド・イン・サイト」「リー・リトナー」の5本のスーパーハイビジョン録画番組を上映した。

時間の都合で初日の最初を飾った「ボブ・ジェームス&ランディ・ブレッカー」一本しか視聴できなかったが、会場には、アストロデザイン製 DLP 8K プロジェクター (25,000 ルーメン) と 350 インチスクリーンが設置され、ジャズファンで満席の状態であった。

ピアノの巨匠ボブ・ジェームスとトランペットの巨匠ランディ・ブレッカーの一夜

の競演は、2017年にニューヨークの「Blue Note」で実現したもので、「ワン・オン・ワン」



写真1 NHKは、「4K8K スーパーハイビジョンパーク」を開催して、12月から放送を開始する 4K8K 番組の認知度向上を図った。



写真2 「8K インターラクティブ (双方向) で遊ぼう」のコーナーでは、人類が初めて月に着陸した際に撮影した写真を 8K 化し、アイパッドで好きなものを選んで見ることができる仕組みを紹介した。



写真3 NHKは、「8K ジャズ・シアター」をオープンし8Kスーパーハイビジョンの魅力アピールした。



写真4 JDIは、4K2.5K VR 120Hz 1001ppiのヘッドマウントディスプレイを出展して目を引いた。



写真5 セノーテは、拳銃を模した「VAIR」デバイスにスマートフォンを装着して対戦ゲームを楽しむシステムを紹介して注目の的になった。

「Westchester Lady」「枯葉」「Dipshit」「Night Crawler」「Feel Like Making Love」などの熱のこもった演奏が堪能できた。

この後さらにNHKは、「サカナクション」の東名阪ライブハウス8Kシアターの開催を予定している。日程は、Zepp 大阪ベイサイドで10月11日～12日、同名古屋で10月15日～16日、同ダイバーシティ東京で10月30日～31日と発表された。狙いは、言うまでもなく若い世代への8Kスーパーハイビジョンの浸透である。

第20回「CEDEC2018」

CESAが主催した今年の「CEDEC2018」は、8月22日から24日までパシフィコ横浜会議センターで開催された。主催者によれば、「東京ゲームショーの併催イベントとして行ってきたゲーム開発者向け技術交流会の規模を拡大してきたもので、今回で20回目を迎える」とのことであった。

「Fantasy becomes Reality (空想は現実になる)」をキーワードに掲げた会場には、コンピューターゲーム開発者・企業を中心に51社・団体が出展して非常に賑わっていた。当日入手したプログラムによれば、展示会と並行して250に及びショートセッションが組み込まれており、多種多様な技術交流に力を入れている様子が伺えた。

本稿では、展示会場で筆者の目を引いたジャパンディスプレイ (JDI)、トビー・テクノロジー、セノーテ (GENOTE)、芝浦工業大学工学部、東芝デバイス&ストレージ (東芝) の展示とデモに触れたいと思う。

JDIは、ソニー、東芝、日立製作所の液晶ディスプレイ部門を統合した会社である。2012年に設立されているので、すでに6年の歴史を誇る。今回同社は、「4K2.5K VR 120Hz 1001ppi」のヘッドマウントディスプレイ (HMD) を出展して、

「1001ppiのHMDは、世界でこれ一つ」と自信満々であった。実際に装着してみたが、2160 x 2 x 2432の解像度を実現する素晴らしい出来栄であった。

GENOTEは、「VAIR」のデモで注目を集めた。いろいろな武器を模した「VAIR」デバイスにスマートフォンを装着して、HTC社の「VIVE」ポジショントラッキングフィールドに入ることによって参加できる仕組みのデモで、来場者が競って参加していた。開発した安本神奈川工科大学准教授 (CONOTE CEO) と寺岡拓殖大学工学部情報工学科助教授は、「銃型のVAIR Gun3と弓型のBowの2種を今回紹介した。HMDを使わないので、子供も気軽に参加できる。多人数型対戦システム形式で最大15人、2チームに分かれての対戦が可能である。モバイルVRを用いる新しいスポーツ競技として普及を目指したい」と意気込んでいた。

トビー・テクノロジーは、同社のアイトラッキングとVRを組み合わせた「Tobii Pro/VR」を出展して体験を促していた。HTC社のVIVE HMDにトビーのアイトラッキング技術を組み込んでいるのが特色である。活用例としては、建築のシミュレーション、運転シミュレーション、シヨールームの内覧、医療手術の支援などを挙げていた。この他、同社はウェアラブルアイトラッカー「Tobii Pro/Glasses 2」も紹介していた。自然な状態での視聴行動から最高品質のデータを

50Hzまたは100Hzで取得できると言う優れものである。

簡易脳波計を用いた「脳波VRゲーム」「脳波MRゲーム」「脳波VRライブ」も注目を集めていた。芝浦工業大学工学部生体通信工学研究室が開発中のゲームで、開発の中心を担っているのは堀江亮太準教授である。HMDは、VRゲームの場合はOculus、MRゲームの際にはホロレンズが使用されていた。

変わったところでは、東芝が、「ボイストリガー・ミドルウェア」のデモを実施していた。「パッと話せて、サッと反応」をキーワードにしたこのミドルウェアは、0.1秒という早い応答速度と、ノイズがある環境でも高い検出率を誇っている。

既述の展示とデモ以外にも興味深いテーマとして「足踏み運動支援用ゲーム、リハビリウム・アシブミジヨーズ」「Spin & Roll: 凸回転体インターフェースを用いたアミューズメントシステム」「空気圧人口筋を利用したウェアラブル力覚提示スーツ」などが挙げられる。いずれも来年の「CEDEC2019」での完成度が楽しみな案件と言って良い。

Naoakira Kamiya
衛星システム総研 代表
メディア・ジャーナリスト

ニッサン新エルグランド4WD
5名定員
1.2m径・自動捕捉アンテナ搭載
車高2.2m以下 (地下駐車場可)
3.6 KVA NMG アイドリング運用
水圧エコ・ポール4m 搭載
強化サスペンション
国内 (100V) 海外 (240V) 対応
IPコントロール
ハイビジョン映像伝送
運転席からワンマンオペレーション

スマート・サテライト・ニュース・ギャザリング

<http://www.bizset.jp>

設計・製造・衛星通信のことなら
エーティコミュニケーションズ株式会社
TEL: 03-5772-9125